



山口 建治	福井県小浜市 (3月2日~3日)
神宮寺においてお水送り行司の調査	
大里 浩秋、富井 正憲	中国 天津市・青島市 (3月10日~18日)
天津南開大学および天津旧日本租界、青島旧日本人居住区における旧日本租界に関する現地調査	
金 貞我	福岡県太宰府市 (3月13日~14日)
九州国立博物館において韓国編生活絵引関連資料調査	
フレデリック・ルシーニュ (RA)	福島県南会津郡 (3月22日~25日)
データベース構築のための民具カードスキャナ取込作業、および現地調査	
三鬼 清一郎	山形県米沢市・秋田県秋田市他 (3月23日~28日)
上杉博物館・秋田県立図書館他において文献資料 (地図・絵図を含む) の調査研究	



原信田實さんの笑顔にもう会えない

訃報

北原 糸子

原信田實さんが1月30日癌のため闘病1年も満たずに亡くなってしまった。神奈川大学21世紀COEプログラムが始まると、最初の第3班「環境と景観の資料化と体系化」の共同研究員として、第1回全体研究会の研究発表以来、第1回国際シンポジウム、プレシンポジウムなどにもお付き合いいただいた。短い間ではあったが、わたしとは浅からざる付き合いとなった。COEで一緒に追究した「名所江戸百景」を安政江戸地震との関係から読み解くという課題を発展させて、この春には新書にまとめて出版する計画であった。この仕事の校正を終えずに逝ってしまわれた。50代の終りを迎えたばかりであったから、まだ「若すぎる」死である。残念というか、本人が一番悔しいだろうと思う。

原信田さんにはじめてお会いしたのは、2003年NHKハイビジョンで歌川広重の「東海道五十三次」と「名所江戸百景」を取り上げた2時間番組の作成現場からであった。絵ならいざ知らず、正統派美術史の領域で論じられてきた広重の錦絵を江戸地震との関係で論じた新しい見方をする人が現れたというので、番組を作るという話であった。番組での話しは、「へー、こんなことを考えている人がいるのだ」とは思ったが、論点には思い付きの域を出ないところがあって論証不十分だという感触を持ったことは事実だ。

しかし、このCOEの課題が「人類文化における非文字資料の体系化」だと気づき、錦絵はまさしく「非文字」だから、災害による環境、景観の変化という問題に絡めても、十分展開できる要素をもっていると考え、2003年の初年度を原信田さんとの共同研究で出発することにした。現在の東京に「名所江戸百景」の痕跡を探すべく、タクシーで可能な限り現地調査するなどのこともした。車の減る日曜日を狙って夏の暑い一日、東京の下町を巡った。彼は車を降りるが早いか、待ちきれないように走っていくのである。その姿は嬉々として、まるで小学生か中学生のようで、いつまでも忘れられない。

また、COEで購入していただいた東京伝統工芸版画協同組合が作成した復刻版『名所江戸百景』で常民参考室を会場に、金子隆一氏（共同研究員・東京都写真美術館専門調査員）に展覧会を構成していただいた。原信田さんのミュージアム・トークの効果もあって、多数の一般参加者の好評を得た。時に「オタク」の顔も覗かせ、「それは言い過ぎだよ」とストップをかけることも稀ではなかったが、なにものにも捉われずに、自分の考えを話す原信田さんは実に楽しそうだった。

彼の仕事の一部は、地震工学の中村操さんの協力を得て、『「名所江戸百景」と江戸地震』データベースとしてCOEホームページにアップされた（裏表紙参照）また、4月にはカラーをふんだんに使った原信田實さんの遺著『謎解き「名所江戸百景」』（集英社新書）が出版される予定である。ここで、わたしたちは再び原信田ワールドに触れることができるはずだが、あの笑顔にはもう会うことはできないと思うといいような寂しさがこみ上げる。